

平成 26 年度第 7 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 26 年 10 月 30 日（金） 18：30 ～ 19：57

【場 所】 望来コミセンみなくる

【出席者】 9 名（15 人中）

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子		委員	前田 和也	
副会長	渡邊 教円	○	委員	今 光江		委員	美馬 康子	
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子	○	委員	盛重 栄司	○
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	築田 敏彦	○
委員	河野 すみれ		委員	高橋 敬二	○	委員	吉田 美香	

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ～ 尾山支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・渡部主任・永澤主任・寺内主任

(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 2名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流（リラックス タイム）
・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項
・複合施設建設構想策定委員会の経過について

5. 協議事項
・住民主体による新たな地域づくり
～自治会・町内会、産業団体などとの相互連携について～
（市の予算化スケジュールから考える）

6. その他
・当別の人口減 食い止めに知恵絞ろう（北海道新聞 H26. 10. 30 朝刊）
・次回会議の日程について

7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。地域協議会に入る前に、小山委員、美馬委員、今委員、前田委員、吉田委員の5名から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。
平成26年度第7回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願ひ致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： おばんでございます。大変寒くなり、また厚田名物のブリザードと言いますか、冬将軍が近づいて来ているという感覚でありました。日も短くなりまして、地域協議会も今までは明るいうちに始まった訳ですけども、もう既に暗闇であり、漆黑の中での会議となりますけれども、将来の地域の灯りとなりますようにという事で、今日の平成26年度第7回の地域協議会を始めたいと思います。
季節柄、欠席の方も多くなっておりますけれども、今日もまた、皆さん達の活発なご意見をいただきたいという風に思います。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・複合施設建設構想策定委員会について（佐藤会長から口頭説明）

5. 協議事項

・住民主体による新たな地域づくり

～自治会・町内会、産業団体などとの相互連携～

（市の予算化スケジュールから考える）

佐藤会長： 住民主体による新たな地域づくりで、前回は自治会の方や町内会の方と顔合わせをし、これから自治会との連携を深めるという事で少しお願いをしました。今度は、産業団体との相互連携をどうしていくかという事で、まず、そのきっかけとしては市の予算スケジュールと言うのが決まっております、それぞれの団体が必要なものを市に予算請求致しまして、この取っ掛りを具体的に考えるという事で、今日はその話題を提供したいと思うのですが、なぜこの話題を提供するかと言いますと、平成17年の合併の時に自治区が出来、厚田支所と地域協議会は、「車の両輪」で進んでいくという事でしたので、それは地域の要望や地域の色々な支援も含めて、支所と地域協議会と一緒にやっていくというんですけれども、今まで団体の方々が必要なものの予算請求というのを直接市に持って行っちゃうんです。市と言いますか役所に持って行く訳ですが、出来ればそういうところで地域協議会もそこに皆さん達と一緒に、市の予算スケジュールに合わせながら必要であれば、この会合でそういう各産業団体ですとか、予算要求をする自治会ですとかと一緒に議論をこの場でしていく方が望ましいと考え、今日の提案をしたという訳であり、そのきっかけとなる市の予算スケジュールからこう考えたらどうだろうかという事で、相原主幹が資料を作成してくれたので説明をお願い致します。

相原主幹： 皆様こんばんは、地域振興課の相原です。これまで、何回か地域協議会の方で住民を巻き込む為の手段・方法を探るという事でお話しをされてきたと思います。その中で、今、

佐藤会長がおっしゃいましたが自治会や町内会との連携という事で、この間、本当の顔繋ぎと言うような事が行なわれました。今後、自治会や町内会さんとの連携もそうですけれども、例えば、地域の意欲のある団体さんとか、若しくは個人さんという事もあると思うのですが、振興基金を例えば活用したいとか市の助成を受けたい等々、色々なケースが考えられると思います。そんな中で、正直、釈迦に説法と言う事で皆さんご承知のところが多いかと思えますけれども、市の予算化のスケジュールと言うものがありまして、それをちょっと切り口の一つとして、そうする為にはどういう時期に話し合いを進めて良いかという事を考えるきっかけとして、今日はお話しをさせていただければと思ひ資料を作成させていただきました。

皆さんのお手元に振興基金の総数が書かれたものと、その裏には市の予算化スケジュールというのがあると思います。丁度この時期に、市は来年度の予算要求をしております。それで長い庁内での調整等を経まして、3月の定例議会に上程されて、初めて4月からの新年度予算として使える仕組みになっております。という事で、色々先ほど申し上げました団体さんとか、若しくは基金を使いたいと話しがあつた時には、この時期の丁度、11月の頭、若しくは10月末位迄にある程度の金額ですとか、こういう事がやりたいんだという事がまとまっていないと、新年度には間に合わないという風になります。方法としては、このスケジュール表の例えば、6月とか9月の定例議会の中で、補正予算という方法も正直取れなくは無いのですが、例えば来年、市は市長選が控えております。市長選挙をする場合は市長が変わる可能性があるので、基本的に骨格予算というのを組みます。あまり政策的に大きくこうやりたいというのを表に出さない訳で、その場合は、6月補正という事で肉付け予算で行政を進めていく訳ですけれども、そういう事はちょっと例外的な進め方なので、新年度予算から何かをやらうとするとどうしてもこの時期までにやらなければならない訳です。この間、自治会さんともちょっと顔繋ぎをして、これからどうやって連携を進めていくかという事を考えるという事になると思うんですけれども、自治会さんとしてもこの予算協議に向けて、色々地域からの要望を汲んだりされていると思いますが、皆さんの協議会のメンバーの中でも、地域からこういうのを例えば、自治会さんを通さないでこういう事をしたいんだよなという話があるかも知れないと思うんです。その時に、このスケジュールを頭の中に少し置いていただいて、本当にそれを新年度からやらうとすると、どうしてもこの時期までに色々な調整をしなければならなくなっております。

この裏の表の方は、今までの振興基金を充ててきた事業が並んでおりまして、こういった事に使われてきたんだなというのをご存じだとは思いますが、資料として付けさせていただきます。

佐藤会長：

はいありがとうございます。という事で、これから何かをするという時には、必ず予算が必要になってくる事業もありますので、そういう時にこの地域協議会の中で、自治会や産業団体、ボランティア団体も含めまして、そういうところで必要な地域活性の為の予算というものを検討していけたらと思うのですが、この辺の今日の提案について、それぞれの委員の皆さんのご意見を聞きたいと思うのですが、こういう形でスケジュールもありますので、例えば、来年こういう事をやってみたいと思った時には、少なくとも今年の11月までに12月から1月の間に計画の予算要求をしなければならぬという事ですから、年度当初に思っても駄目で来年になってしまいますので、そういうスケジュールを頭の中に置いてそういう活動をするという事で、その時に、この地域協議会で特に振興基金を予算化する為には、どうしてもここで議論をしなければなりませんので、この委員の方々と同

時にそういう事を実際になさろうとしている人にも臨時に入って説明していただくような、少し窓口を広げる形で進めていきたいと思っておりますが、その辺、委員の皆さんはどうでしょうか。振興事業の一億円の基金ですが、この基金をお金ありきで使う訳では無いのですけれども、何かをすとなるとこの基金を使って地域振興というかそういう事をしていく訳ですが、なかなか委員の皆さん達からこういう事をやりたいという風にして基金を使いたいという意見は今までもそうでしたけれども、なかなか出てきません。じゃ出て来なかったかという事では無く、平成 18 年度から平成 26 年度までこの協働という事で補助を出しております体育振興事業とか、歴史文化振興事業という事で、これはそれぞれの団体が基金を使う為の予算要求をしております。当然、この地域協議会でも審議をし、議論しておりまして参りました。

支所長何かありませんか。

尾山支所長： 会長の方から説明があった訳ですけれども、実は、基本的に地域振興基金の部分については、新年度から取り組むという事を基本に考えておりますので、補正という部分につきましては、皆さん方の方にこういう事業をやりたいけれどもどの段階でまとめれば良いかという一つの目安としては、今回このように資料を提案させていただきました。ですから、そういう要請とか相談がありましたら支所の方に連絡してもらえれば、それなりの連携を図っていけると思いますので、ここら辺をもう一度、再認識という事で資料を提出させていただきました。

高橋委員： 質問ですが、この表を見るとまだ 14,860 千円しか使っていない訳ですが、浜益なんかの話を聞くと結構消化しているというのを聞いた訳ですけれども、このスケジュールに合わせてやるのもそうなのですが、要求の仕方という事で、最初の段階でどのような設定で今までやって来られたのかという事と、今まで要求して却下された部分というのは今まであったのでしょうか。

尾山支所長： 集計表になりますが、今までのこの取り組みについての一番上だけは、合併した事に伴う「厚田の歩み」という事で、これは行政サイドという事で厚田支所として作り上げたものであります。それ以降の平成 19 年度から今年までですけれども、地域自治区が出来てどういう形でこの地域自治区を構築していこうという中で、やはり地域の課題に対する取り組みでどういう成果が出るだろうという部分を取りまとめて提案してもらい、それで支所がサポーターになっておりますので、それらと一緒に調整しながら出来上がった段階で地域協議会の方に提案し、承認いただいているというような事になります。それと平成 19 年度につきましては、昔からあった体育振興という部分でこれもやっていった方がという事で世代間を超えていこうという形で、毎年 3 年間の部分の事業補助金は終わっておりますけれども、現在に至るまで毎年、スポーツと食の体験なり、ミニバレー、それからスキーで、冬用のスポーツという事でウインターレクフェスタという形で、今現在もこれを続けてきているという事で、目的はそれぞれの会で計画したものをそのまま実行しているという形になります。その他につきましても、大体、考え方としては同じように地域課題に目を向けて、取り組んでいく事言う事でその中で、うちの方では一応、3 年間という形の中で終わっておりますけれども、中には新たな取り組みで新たな基金が必要だという事になれば、また、それは活動に値すると思えます。そこら辺も各団体には話しはしておりますけれども、まだ各団体の方からの再度の申込と言いますか、計画提案というのは、まだな

されていないという事です。それで、今ここの中で大きくなっていくのは、歴史文化で水彩画展という部分での活動が大きく目立つかなと思うんですけども、この事業につきましても、厚田からこの情報を発信という形の中で市の方でもこの取り組みに対しては、最初はちょっと関心が薄かった訳ですけども、今は、二回やった事に伴いまして、やはりかなり大きな信頼と言いますか期待感が持てるようになっております。それで厚田の食材をどんどん全国にPRしていこうという形で、実行委員会の方で反省会を開きながら次の取り組みに向けて頑張っているというところです。

それから二つ目の質問として、今までこの協議会に掛けて却下したといのは、私自信記憶に無いのですが。

佐藤会長： ないですね。

尾山支所長： 私も途中からなので、最初の当初の部分が見えなかったのですが、やはり地域課題の抽出とそれをどうやって取り組んでいくかという提案ですから、地域振興課の職員がサポーターという形の中で一緒に検討していきますので、気軽にというのとあれですが、その地域の中でどういうものが必要というのがあるのであれば、話題を支所の方にも言っていただければ、それなりの対応はしていけると思っております。

佐藤会長： はいありがとうございました。高橋委員よろしいでしょうか。

高橋委員： はい解りました。それでは、今、100%要求が通っているという事ですので、もう少し緩やかな感じで枠を広げても面白いかなという気がするんですけども、その辺もご検討いただければと思います。

佐藤会長： なんかこう面白いもの出していただければと思いますけれども、奇抜で通らないだろうと思うけれども、でもそれが活性化の為に成功するかも知れないので、結構、委員の皆さん達もそうだけれども、予算要求で通るといのはハードルが高いのではないかという風に思われている節もありますので、そういう意味も含めて、各種団体などにも入っていただいて委員の方々はハードルが高いと思われるけれども、全然知らない各団体や人達はこういうやつで地域を元気にしないかというのをしてくれるかも知れないので、そういう期待もあって巻き込んで、自治会も含めて巻き込んでやりたいという事です。

柴田委員： 今更の話しになりますが、この基金の使い方については全部支出してだけで、入ってくるものとして収入としては上がって来ないのですが、例えば、その使い方として何か市に利益が還ってくるような物に使うという風な提案というのは、市としてはどのようなのでしょうか。私もハッキリと解らないので、例えば、何かを使って利益を生むものを使って、そこで市にその分が還元されるというものについての支出というのは、有り得るのでしょうか。

尾山支所長： 事例として何かありますか。かなり難しいあれなのですが、基金事業自体はあくまでも厚田区の基金に対する取り組み事業なので、そこで厚田区が何かをやってという販売ですかね。何かを作って販売するという事位しかないと思うんですけど。

柴田委員：　　そういうのはあるのでしょうか。利益を上げて厚田区に還元されるという。

盛重委員：　　ちょっと良いですか。基本的にこれ自体はやる事に色々な対策がありますけど、実績があつてやる事によって地域が活性化され、地域自体の利益が生まれてというものに対して交付なり補助をするという意味合いなので、それを市に還すという発想は基本的に考えないのではと思うんですよね。確か、私が委員になってからの流れの中で、お金自体のこういった補助というのも基本的に一発で、この補助金を充てにしてというのとあれですけども、一番初めにこの補助金を使うよというのがありきでは無く、例えば、仮に農業関係で予冷庫がどうしても欲しいという事で、それによって振興作物を振興するというみたいな発想でこの補助金を使えないかみたいな話があつたとしたら、まずこれじゃなくて農業関係のそういった補助なり、国の方のそういった補助なりを全部当たって最終的に当たらなかつたり、もう一息欲しいからこれを使わせて下さいというような流れのもので使われてもらって、そこの農業関係が活性化になって、後々の話して市も活性化されるというか、それこそ市税がきちんと払われるようになるという目的の為の振興資金だと私は解釈しているので、そういう意味合いでは無いかなと思っていました。

尾山支所長：　　今ちょっと柴田委員の中で、新たな取り組みの中で考え方も変えながら何か事業を想定しているのかなと思ひながら聞いていたんですけども、基本的にはやっぱり他の補助事業団体のものがあるのであればそれを使つてもらつて地域が頑張れば良いし、ただ、この小さい中で、地域自治体を構築する為に各ソフト系の取り組み事業が必要ではないかというのも主体に考えた中で基金活用という部分でいるんですけども、ただ出来れば私が現在考えているのは、ソフト系でドンドン使つてもらえればという風に思っております。ただ、先ほど会長の方からありましたけれども、複合施設の関係でそれに取り組む各団体のまた新たな構想とかがいっぱい出て来ると思うので、そういう部分でいくとソフト系に使つてもらえれば良いかなという風に私は今考えております。柴田委員の質問に対する答えにはなっておりませんが。

柴田委員：　　それで今、たまたま複合施設の話が出た訳ですが、それが前進していくという見通しが立った段階で、そこに関連してこの基金を何か更にそれらと連動させて有効に使つていける事も、もしかして出てきたらそれらを有効に使うという方法も良いだろうし、また、普通の何と言いますか企業的なものの考え方からいうと、所謂資本金ですが、それを使つてそこで利益が生まれるという風な事まで、何か考えた使い方をしていくというのは大体企業の一般的な発想だと思うのですが、うちの場合これを使つて、盛重委員が今言いましたように、これが結果として少し時間差を置いて地域の為に色々と帰ってくるという事で、こういう事もあるのでしょうかと思ひ切った発想の転換で、このお金を投じた事によって、またそこに厚田区として、非常に利益が出てくるという事を考えていくのも出来るのかなと思つたものですから、それでちょっと今聞いてみただけなので、特段の返事が無くても良いです。

尾山支所長：　　今の考え方はやっぱり凄いなと思うんですけども、やはりそういう部分でいった時に、僕らの目線としては、国の補助事業の選択の方に走りますので、やはり先ほど盛重委員がおっしゃいましたけれども、やっぱり地域の中で、地域をどうにかしたいという事で、頑張ろうと言う事について、どんどんうちの基金を活用していきたいと思っております。

何か、先ほど柴田委員が言いました構想とかがあるのであれば、是非、提案してもらえればそれに対して、うちの方も色々な補助事業を選択して検討してみたいと思います。ただ、収益が上がって市の方にバックという事を考えると、まず基金は厚田区の活性化のための基金であって、石狩市の方にバックという形にならないので、バックしても厚田区にバックかということ、それは営利だよねという形に取られる要素が大きいので、そこら辺は何でも良いのですけれども、思い当たる節があるのであれば、ドシドシ相談してもらえればと思いますし、私は私の出来る範囲で頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

佐藤会長： 柴田委員よろしいでしょうか。

柴田委員： すいません。もう一度、質問させていただきたいのですが、例えば、公共施設で使われている電気料金というのは、これは厚田区内であっても石狩市として公共料金で電気代とか水道料金というのは払うという事で、こっちはこっちは区で賄えという事ではないんですね。

尾山支所長： 今のご質問ですけれども、石狩市として厚田区の厚田支所という事で、この区内にある公共施設については、全部本庁の方に予算要求をしております。今というか、これから予算要求をしていく中なのですが、電気料とかこれから上がっていく訳なのですが、そういう部分も含めて今度、地域自治区として基本的に考えたいのは、厚田区もそういう公共施設においても、どういう形の中で今後やっていけばいいかというのも一つのテーマになるかなと思っております。ただ、今現在ではこの公共施設については、それぞれ指定管理者という事で市の方から指定管理という指定を受けまして、そこに市の方からお金が出まして、その予算の範囲内で施設を管理してもらえというような取り組み状況になってます。

佐藤会長： よろしいですか。

柴田委員： はい。

大黒委員： 地域振興基金というものですから、すぐにお金の面での還元であったりとかそういうのを考えるのは私は考えてないんですよ。心を耕すところで、文化を育てる財産というのがありますが、こういうところには予算が付かないんです。本当に現実的で、私は人間の心を耕す事を第一にいつも思っているんですが、だから他の所に行きますと水彩画で儲ける事が出来るのかとなる訳ですが、そういう話しになると全然駄目なので、そういう話しにならないような持っていく方を私は十分に考えながら、心を耕すんだという事で地域の振興に携わっているんだという事でそういう財産ですね。文化財産を残して行くんだというような考え方にならなければ、いけないなという風に思っております。

佐藤会長： はいありがとうございます。そうですね。その文化財とか文化事業でお金を儲けるとか或いは、その掛けただけの利益をとというのはちょっと相反する事業なんです。ですから、そういうものに対しては行政が手厚く保護するというのが、文化都市の象徴でありますから石狩も是非、そうしていただきたいものですね。

築田委員： 地域振興に対する予算という事なので、今日は支所長も来ておりますので、私はこの他

にも望来自治会の役員もしておりますので、自治会の役員会で常に話題になるのは、今、実際には望来には会館という具体的な会館が無くて、望来の旧保育園の中に獅子舞の道具だとか、或いは望来の自治会の歴史の書類なども入れてたり、地域のお母さん達の語りの会が作った紙芝居なんかもいっぱい入れてあるんですね。この建物が老朽化して、雨漏りがするという事で、毎回毎回、予算の中でお願いをして雨漏りを修理して欲しいという事をお願いしている訳ですが、複合施設が出来たらそれぞれの地域の物も全部そこへ保管出来て、心配無いよという物が出来たらなと思ってはいるんですけど、実際に望来の獅子舞なんかも宗教的な意味合いでなく、郷土芸能という部分の意味合いの方が強くなって中学校の子供達に獅子舞を教えたり、或いは、石狩の大きなイベントがあったら出演料というのは出るんでしょうけど、獅子舞を応援してもらったりという事で、厚田のPRの為に頑張っている訳ですよ。だけど実際には入れる所が無いという事で、その保管に苦慮しているのも現実ですし、この「厚田の歩み」なんかを読んでみますと、望来ばかりではなくて聚富にも何か郷土芸能的な物があったりですか、或いは古潭にもあったりみたいな事が中に残っていて、そういう物を掘り起こしてしっかりと保管出来る事も大事なのかなと思ひ、それでその保管した物を、例えば地域の中学校の文化祭で子供達が獅子舞をやってくれるという事で、それを楽しみに地域の人達が観に来るので、ここからはなかなか観に行けない訳ですが、観に行くと喜んでる姿を見ると敬老会なんかには獅子舞に来てもらってやってもらうというのも一つの手でしょうし、日曜日にやりますから大人達が出れないから学校の子供達に出てもらってやってもらうというのも一つの手だと思いますし、或いは、昔PTAの役員をやっていた時に、厚田が石狩管内の当番校という事で迎えた時には獅子舞もやったし、発足の学校の鮭太鼓なんかもやったりしたんですけど、それもすっかりと無くなってしまっている現状ですから、そういう事も復活させながら皆が集まった時に認識させる事も大事なのかなという事で、そういうとこに何とか予算を付けてあげてという事で、私はそのメンバーではないので声を上げなければ予算は付かないでしょうけども、そういう事を考えるのも大事ではないかという事でちょっと今、話しを聞きながら思っているんですけどという事で答えはいいりません。

佐藤会長：

はい地域からあげましょう。そういう地域の伝統芸能だとか、そういう物の传承をしていうという事にやはり何らかの手を差し延べるといのは、地域としては当然の事なので、遠くの石狩市がそこにきめ細かく心遣いをしてくれるのはちょっと無理ですから、やはりこの自治会を含めたその地域協議会でそれをやっていくという事で是非、議事録に残しておきましょう。

あとはよろしいでしょうか。そういう事で今、例に上がったように委員の方からも色々と言っていたけど、それから今、先ほど言いましたように各地域の自治会を代表している人がいますので、その自治会の色々な問題を先ほども言いましたけれども、そういうものにアンテナを伸ばしていただいて提案していただく。或いは、自分が実際にそこに携わってなくても、そういう団体の方に来ていただいてそういう予算化に向けての検討だとか、そういうものもしていきたいと思ひますので、今後そういう方向でこの地域協議会も自治会やあるいは団体、産業の代表の方も含めた上でその予算、特に地域振興事業の為の基金をどう使っていくかという事で少しハードルを下げながら、なかなか予算が使いにくいという風評がありますので、是非、大黒委員が言いましたようにやっぱり文化振興にはある程度までお金がかかりますので、そういうものにもやはり少し皆さんと検討しながら使えるところは使っていきたいという風に思ひますので、よろしくお願ひ

致します。それでは市の予算スケジュールをその観点で、その産業団体、他の団体の方々と
との連携をこれから地域協議会としても図っていくという事でよろしいでしょうか。

【異議無し】

佐藤会長： それではそういう事にしたいと思います。

6. その他

- ・ 当別の有志の活動だが参考になる活動として話題提供（北海道新聞 H26. 10. 30 朝刊）

平成 26 年 11 月 20 日（木） 18 : 30 ～ 厚田保健センター 多目的ホール

7. 閉会

平成 26 年 11 月 20 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦